

川崎市青少年育成連盟(川崎市子ども会連盟・ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団)

育連だより

“21世紀に挑戦！はばたけ川崎のスカウトたち” —50周年記念キャンポリーに参加して

昭和25年に産声をあげたボーイスカウト川崎地区協議会も、今年で50周年を迎え、その記念行事のひとつとして、川崎市八ヶ岳少年自然の家を舞台に、8月9日から4泊5日の日程で「記念キャンポリー」が行なわれました。

例年では、各団・各隊ごとで行なわれる夏季キャンプを、川崎地区のボーイスカウト関係者が全て集まるキャンプを行なうのですから、準備作業から大変なこととなりましたが、そこは祭り好きな指導者たちの御蔭で、バス13台に分乗したスカウトが9日の昼前に到着するころには、八ヶ岳少年の家全体が『ボーイスカウト・キャンプ村』に様変わり……。期間中、スカウト達は日ごろ培った技能を発揮し、他団の仲間との交歓を通じて友情を深めることもでき、思う存分キャンプ生活を満喫することができました。

中でも『キャンプサイトトレイル』と銘打った全体ゲームラリーでは、「編笠捜査網(暗夜行路)」「阿弥陀岳アタック(滑車くだり)」などなど、お馴染みの八ヶ岳連峰に名を借りたゲームで、一日じゅうスカウトの喚声と笑い声が響き渡りました。

各団が用意した夏祭りの夜店さながらのお店屋さんを回り、スカウトたちの歌や踊りが発表されたステージ、そして最後の夜にはBSにはなくてはならぬキャンプファイアー…と思いきや、最後を締括したのは、ローバースカウトのお兄さんたちが、何ヶ月も準備に準備を重ねてきた『ファイヤー・ショー』で、楽しい劇や踊りで小学生のスカウトも一緒になって盛り上がった一夜を過ごしました。

こんな楽しい思い出を胸いっぱい詰めたスカウトは、お世話になった自然の家の職員の方やたくさんの方々に感謝の気持ちとともに、一生忘れられない経験となったことでしょう。



親子で米づくり

子ども会

麻生区の区政推進事業・体験農業「親子で米づくり」は、画期的な企画でした。

田畑が多く残っている地域の特性を生かしたこの事業は、ほとんどが初めての経験である約200人の親子が毎回参加しています。

この米づくり、素人の集まりですが、地元の良き指導者を得て、参加者全員が楽しみながら一生懸命、種まき、田のくろ、代かき、田植え、草取り、稲刈り、脱穀そして収穫際までが、米づくりの作業工程です。

特に子どもたちは、泥んこ遊びや昆虫取り、用水路での遊びなど日常生活においてはできないたくさんの方々の経験をしたとおもいます。

また脱穀の際には、子どもたちは初めてみる足踏み脱穀機と千刃こきを上手につかい積極的に言い、大人たちを感激させるという場面もありました。

世間では、親と子のふれあいが少なくなっているといわれていますが、この米づくりに参加した親子は、共同作業の汗を流し、助け合う経験を積みました。きっと家庭においてもその経験を話

題にふれあいの場を持つことができたと思います。

また、子どもたち同士も大きな輪ができたし、この事業をとおして子どもたちが自然や農業の大切さを肌で理解してくれたこととおもいます。

この体験農業「親子で米づくり」は区政推進事業の一つですが、麻生区の子ども会の委託事業として、これからも頑張っていきたいと思います。



“みんな集まれブラウニー” ガールスカウト

夏休みも終り二学期が始まりましたが、まだまだ残暑がきびしい九月三日、ガールスカウト川崎市連絡会のブラウニー27名、保護者、アダルト20名、リーダー、役員13名と多勢の参加で楽しい「おやつ作り」を行ない、かつ交流を目的としてクッキングフェスティバルと名付けました。

クラッカー10枚に三色のデコペンを使い思い思いの絵を描き、チョコチップ等でトッピングするという簡単なものです。一生懸命なスカウトの笑顔がとてもかわいい……。十人十色の絵が描かれていました。一枚ずつ描く人、10枚を全部ならべて大きく描く人、スカウトの想像力にはアダルトも顔負けでした。パトロール毎にお友達がアートしたクラッカーを見学して廻り、ティータイムでは食べてしまうには、もったいない思いがしました。ティータイム後、遊びの時間には神奈川県支部の花ブラウニーキャンプに参加したスカウトが

6～7名いて、そのスカウトの自主的な行動で覚えてきたソングや動作つきソングの披露があり、全員で元気よく歌い充実した集いとなりました。

川崎市連絡会のブラウニーの集いもこれから更に内容を検討し、回を重ねて各団のスカウトとの交流が楽しいものとなり、たくさんの新しいお友達が増えることを願い、私達リーダーも努力していきたいと思っています。



八丈島キャンプ 海洋少年団

「こんな大きな魚がいたよ」「小さな魚がむれで泳いでいた」「あそこの岩から飛び込んでみよっか」……海水浴にて。

「飛び魚がはねたの見た?」「すごいスリルだよ」「ギャーギャー」……島祭りで猛スピードのモーターボートに乗せてもらったとき。

「薪を探しに行かなくちゃ」「うまく炊けたみたいだ」……食事の準備にて。

海洋少年団は、今年度の夏の行事として8月3日から8月7日にかけて、伊豆七島の八丈島でキャンプ活動を行ないました。

この八丈島キャンプは、これまで8回行なわれ、今回は、二十人の参加。

十時間の船旅、川崎では考えられない位の強い日差し、石でゴツゴツした上でのテント生活など



つらい状況の中、小学校の低学年が中心でしたが、一人一人頑張り、多少の擦り傷をする子どももいましたが無事に過ごしてきました。

「暑かったけど楽しかった」「今度来たときには、遠くの岩場まで泳げるようにしたい」「釣りもしてみたいな」……帰りの船の中での言葉。

全国子ども中央大会に参加して 子ども会

はじめてなので、知っている人とおなじ班じゃないというのが心配でした。

けど、班の人といっしょにいる時、少しずつきんちょうがとけてなくなり、一日目はあまりしゃべらなかつた人とも二日目になると少しずつ話せるようになっていきました。

ひまわりの歌を歌う時も、最初は全然歌わなかつたけど、日にちがたつだけみんなにつられて歌っていました。発表会でも、みんなで力をあわせて協力して一つのものをかんせいさせました。おわつたあとに送られる拍手はとてもうれしかったです。最後の日に歌つた、ひまわりは、みんなにかんどうをあたえ一番よく歌えたと思います。

きかひがあれば、また、この全国子ども中央大会に参加したいです。

(青柳透宏、川下実菜子、内藤 茜、高松佐千子)



シニアの集い

ガールスカウト

今年度は「シニアの集い」として、川崎市連絡会では何年かぶりに手旗訓練を行いました。

まずは7月9日、中原市民館にて「基礎編」としてシニア13名、リーダー9名で手旗の基礎を勉強しました。スカウトは勿論のこと、リーダーでも初めて手旗をもつという人が多かつたのですが、基本の数字もクリアー、最後には自分の名前をうつことまで出来るようになりました。

10月1日、青少年の家にてシニア10名、リーダー6名で今度は「応用編」として名前を書くことから、短い文章を書けるようになるまで練習をしました。この日ははっきりしないお天気でしたが、何とか屋外でのびのび手旗が出来ました。基本の数字からおさらいをし、最後は二人一組になって、お互いに色々な質問をしあう訓練を行いました。何人かは本とにらめっこしながら、それでもなんとか時間をかけながらそれぞれ手旗で「会話」を

していました。

今後はスカウト各自がレポートを提出すれば「特殊通信員」というバッジが取得できますが、何よりもリーダー達が驚いたのは、スカウトの上達の速さと記憶の良さでした。

丁度文化祭など学校行事が多い時期で、スカウトの参加は少なかつたのですが、お互いの団のスカウトとも交流ができ、有意義なシニアの集いになりました。



川崎地区協議会創立50周年記念事業終わる ボーイスカウト

ボーイスカウト川崎地区協議会は、本年創立50周年を迎えまして、記念事業として、8月のキャンポリー、11月12日の記念式典、11月19日の記念祝賀会、記念誌の発行と4つを計画し、企画、準備、実施と多くの人の努力と協力によって無事

に終了することが出来ました。

これからは21世紀に向かって地区役員・各団のリーダー・スカウトが一丸となって頑張っていくよう心を新たにしました。

幸区リレーカーニバル

子ども会

スポーツの秋、第二十回幸区民祭参加「体育の日」記念、第二十八回幸区リレーカーニバルが十月八日（塚越中学校校庭）にて幸区町内会連合会主催団体の幸区子ども会連合会加入単会から三十九チームが参加し盛大な入場行進（写真）で開会式が行なわれた。

幸区リレーカーニバルは、全町連体育活動の一環として開催し、各町内会内で足の早い小一から大人男女を選考出場させる仲間作りを盛り上げる参加行事活動なのです。

また、幸区内の各地域から集まった皆さんが、町会や子ども会の名誉をかけて、リレーや応援にがんばっている姿は、新聞紙上に報道される、「このような大規模で、すばらしい大会は、ほかにも例がない」と自慢できます。

選手の皆さんは練習の成果を十分に発揮して、大応援の中でバトンタッチで走るリレーは、体育の日記念大会として、その意義を、広く区民に浸

透させるとともに、幸区子ども会連合会行事活動の一環として幸区リレーカーニバルが二〇〇一年に向けてますます発展し、ふれあいと、思い出の輪を広げ、明るく、素直な子ども達の成長を願い、このリレーカーニバルが末長く継続をお願いしたいと思っております。



誰でも何でも相談できるよ

～相談窓口の紹介～

学校や友だちのこと、家族のことなど、なにかこまったことがあったら、気軽に電話で相談してください。

子ども専用電話					
総合教育センター（溝の口）	月～金	土・日・ 祝・年末 年始は休	9:00～16:30	844-6700	教育相談
総合教育センター（塚越）	月～金		9:00～21:00	522-3293	教育相談
国立教育会館	毎日	祝・年末 年始は休	9:00～24:00	0120-79-7014	いじめ相談

子どもも大人もかけられる電話					
総合教育センター（溝の口）	月～金	土・日・ 祝・年末 年始は休	9:00～16:30	844-3700	教育相談
総合教育センター（塚越）	月～金		9:00～21:00	541-3633	教育相談
〃	月～金		16:00～21:00	0120-53-3993	
川崎市教育委員会	月～金		9:00～16:30	200-3288	教育相談
青少年センター（ヤングテレホン相談）	月～金		12:00～20:00	211-8080	青少年相談
〃	土		9:00～17:00	〃	
中央児童相談所	月～金		8:30～17:00	877-8111	児童相談
南部児童相談所	月～金	8:30～17:00	244-7411	児童相談	
県立教育センター	月～金	年末年始 は休	9:00～21:00	0466-81-8111	教育相談
〃	土日祝		9:00～17:00	(24時間受付：左記時間以外は留守番電話)	

この情報以外にも様々な窓口がありますので、お知りになりたい方は、こちらにご連絡ください。

川崎市青少年育成連盟 ☎733-3951 FAX 733-3974

発行 川崎市青少年育成連盟

事務局 〒211-0053

中原区上小田中6-22-5

エポック中原5階

TEL 044-733-3951

印刷 西桜印刷株式会社

※青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、青少年育成連盟事務局（733～3951）へ